

# 外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/10/01

## 再び欧州がメインの相場に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	リスクオン・オフと米長期金利	2 - 3
		予想レンジ: 76.00 ~ 80.50 円	
<u>カナダ/円</u>	➡	欧州・中国情勢がカギ	4 - 5
		予想レンジ: 76.50 ~ 82.50 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



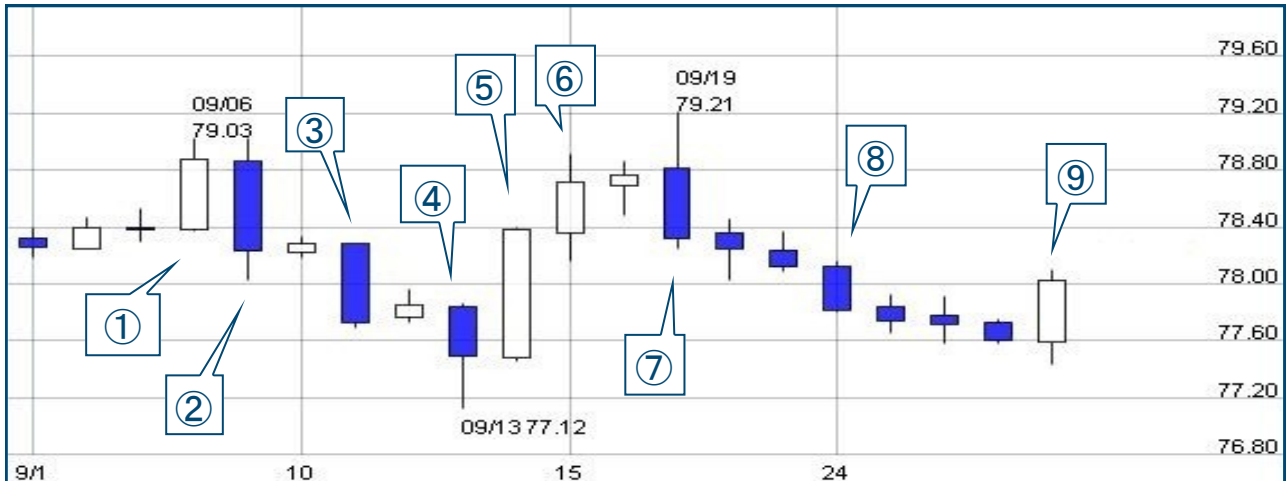
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD / JPY

## ドル/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.32円	79.21円	77.12円	78.03円



①

6日、米8月ADP全国雇用者数が20.1万人増(市場予想:14.0万人増)、米新規失業保険申請件数が36.5万件(同:37.0万件)、米8月ISM非製造業景況指数が53.7(同:52.5)と、市場予想を軒並み上回ったことを受けドル/円は上昇。欧州中銀(ECB)のドラギ総裁の記者会見にて同総裁が問題国の国債購入プログラムの導入を決定したことを発表後、対ユーロでドル高が進んだこともドル/円を押し上げた。

②

7日、米8月雇用統計は失業率が8.1%(予想:8.3%)となったが、非農業部門雇用者数は前月比9.6万人増と予想(13.0万人増)を下回った。6日に発表された8月ADP全国雇用者数の好結果を受けて市場では予想以上の雇用増加の期待が掛かっていただけに、この内容が伝わるとドル/円は急落した。

③

11日、格付け会社ムーディーズが、米国の予算協議で債務削減が合意に至らなければ米国債を格下げする可能性がある、との見解を示したことでドル売りが強まり、引けにかけて77.69円まで下落した。

④

13日、25時30分、米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明にて、異例の低金利に据え置く期間を「2014年終盤まで」から「2015年半ばまで」に延長した上、毎月400億ドルのペースで住宅ローン担保証券(MBS)を購入すること、「労働市場の見通しが大幅に改善しなければMBSの購入を続け、追加の資産購入に取り組み、物価安定という背景において労働市場の改善が達成されるまで必要に応じてその他政策手段を採用する」との意向を示した。発表直後のドル/円は急落したが、77.12円まで下げた後は日銀によるレートチェックが入ったことを受けて反発。購入対象が米国債ではなかったことを受けた米長期金利の上昇等もあり、77.74円まで値を上げた。

⑤

14日、前日に発表された米量的緩和第3弾(QE3)を好感して株高が進み、米長期金利が上昇するとドル/円も上昇。米9月ミシガン大消費者信頼感指数が79.2と市場予想(74.0)を上回ると一段高となった。

⑥

17日、日銀の追加金融緩和観測がくすぶる中、中国各地での反日デモ発生による地政学的リスクが強く意識されると円売りが強まり、ドル/円は78.92円まで上昇した。

⑦

19日、日銀が資産買入等の基金について、長期国債と国庫短期証券をそれぞれ5兆円ずつ、合計10兆円の増額を発表。さらに、長期国債の買い入れ期限を2013年12月末まで延長し、同国債購入時の下限金利(年0.1%)を撤廃することを決定した。これを受けてドル/円は円売りで反応。79.21円の高値をつけた。しかし、欧州市場以降は米長期金利の低下を受けて失速。NY市場では78.25円まで値を下げた。

⑧

24日、独9月IFO景況指数の弱い結果を受けて全般的にリスク回避ムードが広がる中、米長期金利が低下。これを受けてドル/円は77.80円まで値を下げた。

⑨

28日、四半期末を睨んだ円売り・ドル買い注文が入ったことや、スペインの銀行ストレステストについて想定ほど悪くないとの見方が広がりがリスク回避ムードが緩和したことからドル/円は78.10円まで上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## USD / JPY

## 今月のポイント

9月のドル/円相場は77.12～79.21円のレンジで推移。月間の終値ベースでは前月とほぼ変わらない水準となった。この月は、米国の量的緩和第3弾(QE3)導入観測、そして実際のQE3導入を受けて77.12円まで下落したものの、その後はQE3を好感して全般的にリスクオン相場になると、米長期金利が上昇し、ドル/円も77.21円まで上昇するという展開になった。しかし、下旬以降はスペインやギリシャなど、欧州の問題についての不安が広がり、リスク回避目的の米国債買いが入ったことで米長期金利が低下。ドル/円は上げ幅を縮め、月としては方向感に乏しい、という結果に終わった。

9月にQE3が導入された結果、当面は米国の金融政策は変更される可能性が低く、米経済指標に対する注目度は低下していると見られる。その一方で、金融市場ではスペイン・ギリシャに対する不安や中国の経済減速懸念と、それに対する各国の対応に関心が集まっている。10月のドル/円相場は、これらの動向を受けてリスク許容度が拡大するか、縮小するかがポイントとなりそうだ。基本的にはリスク許容度拡大となれば米長期金利上昇→ドル高・円安、縮小すれば米長期金利低下→ドル安・円高、という反応になると見る。ただ、米長期金利との連動性が切れてしまい、ユーロ/円、ユーロ/ドル睨みの相場に変化することも十分にありうるため、そうした反応の癖の変化には常に気を配るべきだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 76.00～80.50円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

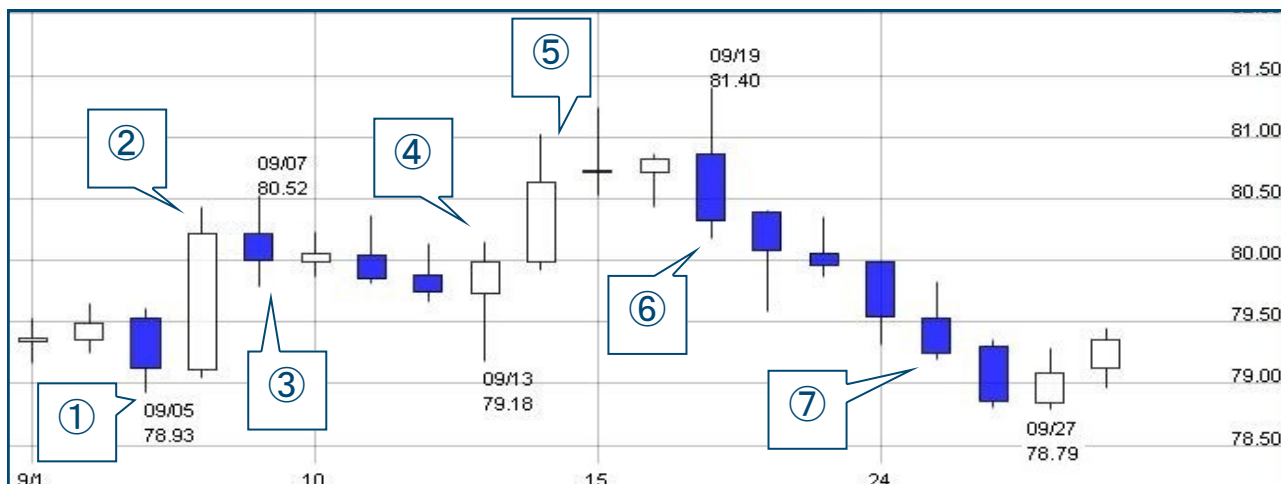
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	9月米ISM製造業景況指数	10/16(火)	9月米鉱工業生産
10/3(水)	9月米ADP全国雇用者数	10/17(水)	9月米住宅着工件数
	9月米ISM非製造業景況指数	10/18(木)	10月米フィラデルフィア連銀景況指数
10/4(木)	欧州中銀金融政策発表	10/19(金)	EU首脳会議(18日～)
	FOMC議事録	10/22(月)	9月日通関ベース貿易収支
10/5(金)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	10/23(火)	10月米リッチモンド連銀製造業指数
	9月米雇用統計	10/24(水)	FOMC政策金利発表
10/8(月)	ユーロ圏財務相会合	10/25(木)	9月米耐久財受注
10/9(火)	8月日経常収支	10/26(金)	第3四半期米GDP・速報値
10/11(木)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (9月18日・19日分)	10/30(火)	日銀金融政策決定会合(発表)
	8月米貿易収支		9月米消費者信頼感指数
10/12(金)	10月米シガン大消費者信頼感指数・速報値	10/31(水)	日外国為替平衡操作の実施状況
10/15(月)	9月米小売売上高		9月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## カナダ/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	79.34円	81.40円	78.79円	79.36円



- ① 5日、カナダ中銀(BOC)は政策金利を1.00%に据え置くと発表。声明文で将来的な利上げの可能性に言及し、引き締めスタンスこそ維持したが、差し迫った利上げの必要性に触れなかった事から年内の利上げ予想が後退するとカナダドル売りが優勢となった。
- ② 6日、欧州中銀(ECB)が政策金利を0.75%に据え置いた上、条件付き(不胎化)ながら無制限の問題国の国債購入を発表した。また、米8月ADP全国雇用者数や米新規失業保険申請件数が予想よりも良好な結果となると、翌日の米8月雇用統計への期待が高まった。さらに米8月ISM非製造業景況指数も改善した事で欧米株価が大幅に上昇するとカナダ/円は80.43円まで上昇した。
- ③ 7日、加8月雇用統計は失業率が予想通りの7.3%、雇用者ネット変化は3.43万人増と予想(1.00万人増)を大幅に上回った。一方で、同時に発表された米8月雇用統計は失業率こそ改善したものの、非農業部門雇用者数の増加幅が予想を下回る弱い結果となった。これらを受けてカナダドルは対ドルでは上昇したものの、対円ではドル/円急落の影響をより強く受けたため79.79円まで下落した。
- ④ 13日、米連邦公開市場委員会(FOMC)が、声明文中の異例の低金利を据え置く期間を「2015年半ば」へと延長し、「住宅ローン担保証券(MBS)を毎月400億ドルのペースで購入」する量的緩和第3弾(QE3)を発表した。カナダ/円はドル/円の下落につれて79円台前半まで値を下げる場面も見られたが、QE3を好感してNYダウ平均が大幅に上昇すると、80.15円まで反発した。
- ⑤ 14日、前日の米QE3を好感してアジアから欧州の各市場で株高が進行、さらに原油先物価格も100ドル台に上昇するとカナダ/円は5月4日以来となる81円台乗せを達成した。米QE3の買取り対象に米国債が含まれなかったためその利回りが上昇し、ドル/円が上昇した事もカナダ/円の上昇につながった。
- ⑥ 19日、日銀が資産買入れ基金の10兆円増額や長期国債買入オペの下限金利(年0.1%)の撤廃などを発表すると、円売りが強まり、カナダ/円は81.40円の高値を付けた。しかし、その後は、欧州株が下落した事から売りが優勢となり、日銀の緩和発表前の水準を割り込んで80.17円まで下落した。
- ⑦ 25日、ドイツ、オランダ、フィンランドの3カ国が、スペインは自国の銀行問題のコストを負担すべきで、ユーロ圏の恒久的な救済基金である欧州安定化メカニズム(ESM)による銀行への資本注入は限定的であるべきだとの認識を示した事を嫌気して欧米株価が下落した事からリスク回避の動きが強まると、カナダ/円は売り優勢となった。スペインの首都マドリードで、新たな緊縮策に反対するデモ隊が警官隊と衝突したとの報道もリスク回避の動きに拍車をかけた。

## CAD/JPY

## 今月のポイント

9月のカナダ/円相場は78.79円～81.40円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約ほぼ寄り引け同値となった。月初から欧(ECB)、米(FRB)、日(BOJ)と主要国で金融緩和が続き、ベースマネーの増加＝インフレ期待＝リスク資産(株や商品など)上昇、との思惑からカナダ/円は81.40円まで上昇したが、ECBが無制限の国債買い入れを発表したにもかかわらず、スペイン政府が(ECBの国債買い入れの条件である)救済基金への支援要請を渋る姿勢を見せた事から月後半になると同国国債利回りが再び上昇。中国の景気減速懸念から上海総合株価指数が年初来安値を更新して下落した事なども投資家のリスク回避姿勢を強める事になり、カナダ/円は一時79円を割り込んだ。

10月についても、当面は欧州・中国情勢を睨んだ動きが続きそうだ。欧州では、スペインやギリシャの支援が重要議題となるであろう8日のユーロ圏財務相会合および18日-19日のEU首脳会議が注目される。スペインが救済基金に全面支援を要請し、ギリシャ与党が合意した歳出削減案が無事に議会を通過し、欧州連合(EU)などが承認すれば、足元の不安は大きく後退することになる。一方、中国では景気支援のための追加金融緩和観測が高まりつつあるが、共産党指導部の交代が予定より1カ月遅れて11月にずれ込むことになっており、追加緩和(あるいは経済対策発表)も11月に先送りされる可能性が出てきた。国慶節明け(10月8日)以降の上海総合株価指数の動向には注意が必要であろう。

そのほか、10月23日にはカナダ中銀(BOC)が政策金利を発表するが、米国が量的緩和第3弾(QE3)を発表した事もあって、BOCがタカ派姿勢(カナダドル独歩高につながる可能性があるため)を強める可能性は低いだらう。(神田)

(予想レンジ:76.50～82.50円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	日銀短観	10/11(木)	8月加新築住宅価格指数
	9月中国製造業PMI		8月加国際商品貿易
	9月米ISM製造業景況指数	10/13(土)	9月中国貿易収支
10/3(水)	9月米ADP全国雇用者数	10/15(月)	9月米小売売上高
	9月米ISM非製造業景況指数	10/17(水)	9月米住宅着工件数
10/4(木)	9月加Ivey購買部協会指数・季調済	10/18(木)	第3四半期中国GDP
	米FOMC議事録	10/19(金)	EU首脳会議(18日～)
10/5(金)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)		9月加消費者物価指数
	9月加雇用統計	10/23(火)	8月加小売売上高
	9月米雇用統計		加中銀政策金利発表
	8月加住宅建設許可	10/26(金)	第3四半期米GDP・速報値
10/8(月)	ユーロ圏財務相会合	10/30(火)	日銀金融政策決定会合(発表)
10/9(火)	9月加住宅着工件数	10/31(水)	8月加GDP

巻頭の特記事項を必ずお読みください。